

# GAJUMARU

ガジュマル



第20号  
(通巻109号)

特集  
**旅**

2013.09

恵泉女学園中学・高等学校  
信和会図書部

世田谷区船橋 5-8-1

## 目次

- P.1 目次
- P.2 月日は百代の過客にして、  
行き交う年もまた旅人なり！  
(六年 高野)
- P.3 しごとと一人旅。  
自分になつたりなのはどちら？  
(五年 木部)
- P.4 世界のドア  
(四年 吉岡)
- P.5 突撃！インタビュー  
(三年 村上)
- P.6 調べ学習から見る、新たな発見  
(二年 吉原)
- P.7 地球の歩き方  
(二年 中川)
- P.8 心の旅  
(一年 坂本)
- P.9 京都旅のポイント？  
(二年 宮崎)
- P.10 あなたにオススメの本心理テスト  
(三年 佐藤)
- P.11 世界を歩いて：  
(四年 古川)
- P.12 愛を見つめる旅  
(五年 志摩)
- P.13 水平線めざし、放浪者は行く  
(六年 長谷川)
- P.14 旅する先生
- P.15 旅する先生  
メディアセンター 秘境の旅
- P.16 編集後記  
ガジュマル係 顧問 名前前

行き交う年もまた旅人なり

誰でも名前を知っている、松尾芭蕉の「奥の細道」は、このような一文から始まります。去り行く年月というのは、永遠を歩む旅者であると、芭蕉は言っています。彼の「旅」を『ビジュアル版 奥の細道』という一冊の本を手がかりに、考えてみたいと思います。

この本には、「奥の細道」の現代語訳と、それに關する解説が載せられています。芭蕉の言葉の響きを失わずに訳された文章は、その魅力を存分に伝えてくれます。引き込まれるように読み進めていくと、私はある面白ことに気がきました。「危うい目に遭うのでは」と、旅に対して決して前向きとは言えないコメントを残しているのです。なぜ、芭蕉はそう言いながらも、旅をやめることがなかったのでしょうか。

その答えもまた、文章の中に隠されているように思います。芭蕉は、道中の危険に言及しつつも、一方でとても精神的に「旅」を楽しんでいます。しみじみとした風景や人情に、芭蕉が胸打たれるような場面は、もちろん数多くあります。それだけでなく、彼は遠い昔の有名な旅人たちに自分を重ね、その後を辿ることに熱心なのです。生き生きとした文章から伝わってくる

彼の興奮は、物語の舞台を巡って楽しむ現代人と通じるものがあるほどです。芭蕉が旅に夢中になる気持ちと、身の危険を恐れる気持ちは、一見すると相反するもののように思えます。しかし、その二つがあるからこそ、芭蕉は旅を続けたのだと思います。怖いものだと嘆きつつ、抗いきれない欲求によって一歩一歩足を進めることが、彼にとつての「旅」なのです。

この本には、そんな彼の巡った地の写真が、数多く載っています。芭蕉が昔の旅人の跡を追ったように、私たちもまた、彼の足跡を辿ることのできる一冊です。芭蕉の感じた旅への思いを、追体験してみたいかがでしょうか。



『ビジュアル版日本の古典に親しむ』奥の細道 山本健吉 世界文化社 六年 高野梨音

LOCCO入旅。自分でびつたりなのぼろい

LCCとは「Low Cost Carrier」という略語で、近年多く出ている格安エアラインのことです。世界各国にもありジェットスター航空やセブンフライック航空などもその一つ。そして日本も二〇一二年にピーチ航空が就航されました。この本の作者はそのピーチ航空が就航されたばかりのときに乗り、タイ・ベトナム・シンガポール・バリ・マレーシアの計七カ国を格安で旅をします。

この本のLOCCOのキーワードである「格安」。この言葉通りにするためには、大手空港と違う点が多くあります。例えば、飛行機で出る機内食や飲み物。普段私たちは無料でこれらをもらえるのが当たり前となつていますが、LOCCOでは全て有料であるのが当たり前となっています。そして機内の座席間隔。普通の飛行機ではゆったりと足をのばすスペースがありますが、「格安」を実現するため、LOCCOでは機内に座を増やし、少しでも多くの客を機内につめようと前の席にひざがつくほどです。「コスト削減のために最大限削減」ところは削り、「格安」にする。それがLOCCOです。飛行機だけでなく空港でもそのような場面が多くあります。私たちの常識が通じず、新しい発見や驚きの連続です。そしてこの本のもう一つのポイントは七

カ国での作者の体験が書かれていることで、この作者は旅好きでいろいろな国へ言った経験のある方です。旅行慣れをしているため、私たちのよくわからない料理や場所でも、初心者でもわかるような説明ちゃんとなり、本の所々にその旅行中に撮った多くの写真が載っているため、見ても、読んでも楽しみながらその国のことがわかると思います。空港と旅行のことが同時に読め、最近のことが書いてあるのが記憶に新しいため、また楽しいです。LOCCOで格安にして各国を回る、計画的な旅はどうでしょうか。

一人旅ならバックパッカーの話。大学生が一人旅をし、その国での実体験を十五人分集めた本です。体験談の他にも、その国での写真や旅行へ行くときへのアドバイスが豊富です。格安で計画的な旅行と一人旅、あなたはどちらが自分にびつたりだと思いますか。

『LOCCOで行く〜アジア新自由旅行』3万5000円で7カ国巡ってきました! 吉田友和 幻冬舎 『僕が旅に出る理由』 編:日本ドリームプロジェクト いろは出版 五年 木部汐梨

世界のドア

ドアを出て、ドアを通り、ドアに入る。何気なく繰り返している日常の動作ですが、非日常を求め旅にでるときでさえ、私たちは同じことをしています。故郷を離れるときでも、旅先へ向かう途中でも、辿り着いた先でも、いたるところで私たちはドアに接しているのです。

『世界のドア』は、その名の通り世界各地のドアの写真集です。緻密で華麗な装飾の施されたもの、色鮮やかで奇抜なデザインのもの、可愛らしくポップなものなど、私たちが普段目にするのではないような数々のドアはどれも目を引きまします。思わずドアノブを手にとつて中へ入りたくなくなるようなものばかりです。

旅の醍醐味といえば、やはり異なる土地での文化や雰囲気の違いを味わうことにあると思います。この写真集で世界各地のドアを見比べてみると、ドアという身近で至極日常的な存在にすらも、その土地ごとの文化の違いが色濃く表れるのだということがよくわかります。例えば、立派なライオンのノッカーがついているのはギリシャのドアで、インドのドアには綺麗なアラベスク模様が施されています。地域によって、その表情は実に様々です。

この小さな写真集にはドアの写真だけではないにもかかわらず、なぜか他の写真集

突撃! インタビュー

今回のテーマは「旅」。ということで、先生方に旅についてインタビューをさせていただきました。ことになりました。

☆五年生担任・国語科教員 楠木先生

Q1 今まで何カ国に旅をしたことがありますか。

A1 フランス、イタリヤ、中国、タイ、オーストラリア・・・だいたい十五カ国くらいですかね。

Q2 その中で一番印象に残っているのはどこですか。

A2 フランス・スペインの過境の旅です。かつて昔の人が聖地に向かって巡礼した道のを、バスでたどるんです。最初の旅だったので、一番印象に残っています。

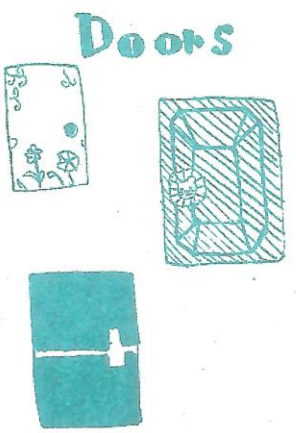
Q3 旅の醍醐味は何だと思いますか。

A3 非日常的な体験ですね。知らない場所で、いろんな発見をしたり、新しいものや知らなかった自分を知ることができるので。

Q4 先生にとつて旅とは。

A4 非日常を味わい、新たな活力の源となるものです。

よりも臨場感があり、自分が旅をしてその場にいるかのような錯覚を起こさせてくれます。それは、数々のドアの写真が、「このドアはどここの国にあるものなのだろう?」「周りには、中には、一体何があるのだろうか?」といったような想像をかきたてるからなのかもしれません。旅に出たいと思うことはあつても、実際そう簡単には実現できないものです。しかし、そんな時にこそこの写真集を眺めてみて頂きたいと思ひます。ドアという日常の存在が、不思議な非日常の旅気分を味わわせてくれることでしょう。



『世界のドア』Doors』ベルンハルト・W・シュミット ビエ・ブックス 四年 吉岡詩織

☆三年生副担任・理科教員 熊原先生

A1 アメリカとタイ、二カ国です。

A2 タイへの旅ですね。震災がちょうど起きて、「日本は大丈夫か」と現地の人にきかれました。

A3 普段とは違う、日常的でない点ですね。文化の違いも面白いです。

A4 現実逃避です。

今回、インタビューをして、先生方は旅を「非日常」と考えていることがわかりました。私も非日常的な体験をしてみたいと思ひます。インタビューに答えて下さった先生方、ありがとうございました!

三年 村上紗恵子



みなさんは「調べ学習」といわれると、どのようなことを思い浮かべますか。「面倒くさい。」「こんなことをして何の意味があるの?」と不満を感じる方も多いのではないのでしょうか。どのようにしたら調べ学習が楽しいと感じられるようになるのでしょうか。そのことを考えつつ、これから、世界中の食の文化についてたくさんの方を誘ってあげたい、ある一冊の本をご紹介します。

私がおすすしたいには、「食で選ぶ世界の旅」という本です。この本の最大の美点は写真が豊富に掲載されていることです。それも、あつと目をむいてしまうような写真がいくつもあるのです。例えばトルコの伝統的なアイス。実はこれ、アイスなのにおもちゃみたいなのにびてしまっています。また、オランダの屋台でよく売られているニンジン漬は、なんと手づかみで丸ごと口に入れるという豪快な食べ方が古くからの習慣なのだそう。他にもギリシャの肉屋さんでは、店一杯に大量のソーセージやハムが天井にぶら下げられている様子を写真で見ることが出来ます。

このように国によって食の文化は様々です。国が違うというだけで食の文化はこんなにも大きく変わってしまうのです。そして、その背景には国の気候や土地柄はもち

### 地球の歩き方

みなさんは「旅」といったらどのようなことを思い浮かべますか。例えば「自分探しの旅」のように行き先もプランも決めた「旅」もあると思います。

しかし、まだまだそんな思い切ったことは出来ないと思います。だから私は「旅」と聞いたとき、海外旅行のことをイメージしました。

なぜ「海外旅行」なのかというと、国内でももちろん立派な旅行ですし、私は旅行は国内派です。しかし、何が「旅」は未知の世界へ飛び出していく、新しい空気に触れる、という印象があったのだと思います。

しかし、やはりいきなり海外に飛び出すのは怖いんです。ここで、私の友達で海外へ行って初めて知ったこと、おもしろかったエピソードをご紹介します。

まず、タイのバンコクの話です。バンコクでは停電がよくあり、家でご飯を食べる時に停電した際は懐中電灯の光で食事をしたそうです。また、タイは仏教の国だから「ワイ」と行って手を合わせて挨拶をするそうです。マクドナルドの人もワイをしてもらっています。

次にドイツです。色々あるようですが、多くの人が犬にリードをつけていないこと、夏は午後十一時でさえ日本の午後五時

### 心の旅

みなさんは「旅」が好きですか。海外旅行、修学旅行、研修旅行など、旅には色々な種類がありますね。

「旅」という言葉を聞くだけで、異国の美しい風景が次々と脳裏にうかびます。ところが「旅」を辞書で引いてみると、このように書かれていました。

一、住んでいるところを離れてよその地を訪ねること。  
二、自宅を離れて臨時に他所にいくこと。

どちらも「旅のロマン」が感じられない説明です。ただ、いつもと違う場所に行くことが「旅」だなんて、面白くないと思いませんか。

そこで私は「心の旅」について考えてみました。たとえ旅に出ることができなくても、私たちは「心の旅」を楽しむことができます。方法は人によって様々だと思いますが、たとえば本を読むこと。本を読むことで、私たちは本の中に描かれた時代や国を訪れ、事件や人々と遭遇することが出来ます。映画やドラマ、音楽や一編の詩、一枚の写真や絵画を通して、私たちの心は自由に「旅」することができるのです。

今回紹介する「図書館少年」という本も、私たちが少し不思議な「心の旅」に連れて行ってくれる一冊です。

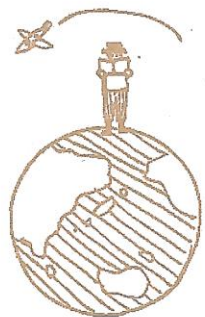
『食で選ぶ世界の旅』 東京書籍  
二年 吉原和花

### 京都旅のガイドブックは?

今回紹介する本は「たびまる京都」という本です。この本は、「たびをまるごと楽しもう」という思いから、この題名になった本です。

私にとつて旅とは、非日常を味わえるものです。しかし、旅先で迷ってしまった、突然雨が降ってしまった、などハプニングに会うこともあったと思います。そんなことがあると、せっかくの旅の思いでも台無しになってしまいかも知れません。そんな時、この本を使えば、旅をまるごと楽しむためのヒントが見つかります。今回は、そんな「たびまる京都」から五年生の京都・奈良見学旅行でも役立つ旅のポイント、また、この本の見所や良い所を紹介したいと思います。

まず、この本にのっている「湘南コーラス」で行く場所を紹介します。まず、三十三間堂は、全長二二〇メートルの本堂に、千手観音像を中心として、船体の千手観音立像があります。ちなみにこの本には、「仏像の見方がわからない」という人のために仏像の見方がのっています。この本の特徴でもありますが、文字は少なく、絵、写真が多めで読みやすくなっています。三十三間堂にある千手観音の立像とは、立ち姿の仏像をあらわし、蓮の台座に裸足ですらつと立つ威厳ある像という意味がありま



『地球の歩き方』

地球の歩き方編集部 ダイアモンド社

一年 中川こころ

たとえば、その中の一編「なくしたピアス」で私たち読者は、ウッド(リュート)という楽器を引きながら各国を旅する「マヤ」という外国人女性に出会います。泊まるあてのない彼女を自分の仕事部屋に泊めてあげますが、翌朝彼女は消えています。かわりに手紙が置いてあり、バスルームで彼女が見つけたピアスが同封してありました。それは、ずっと前になくしたはずのピアスだったので。

たったこれだけの短編ですが、読んだ後、心が不思議な気持ちでいっぱいになりました。

何でもないような私たちの日常にも「あれ?」というような小さな不思議体験がありますよね。そのまま通り過ぎてしまえば、すぐに記憶から消されてしまいがちですが、少し立ち止まって「どうしてだろう」「これってなんだろう」と考えてみることは、「心の旅」の始まりかもしれません。

これから、みなさんはどこへ「旅」しますか。場所が変わるだけの旅なんかもったいないです。ぜひ、色々な風景に出会って、素敵な体験をして、私たちのこの時期にしかできない「心の旅」を楽しみましょう。

『図書館少年』 大竹昭子 中央公論社  
一年 坂本りり

次に、三十三間堂は、高野川上流の大原にある天台門跡の一つです。二つの京都市指定名勝庭園をはじめ、重要文化財や本堂など見所が多いです。ちなみにこの本にはあ、「庭の見方がわからない」という人のために庭園の見方ものっています。庭園の種類や、庭園に置いてある灯籠・池の花・庭木・錦鯉の意味まで載っています。また、この本の紅葉名所ランキングで二位に入っています。最後に、京都御所は、御所の東北角は鬼門になっていて、屋根には邪悪なものが去るように去るの神像があります。京都御苑内にあります。

次に、服装です。五年生の京都・奈良見学旅行は九月にあるということで九月の服装を紹介します。九月は寒暖差が激しいので暑さや寒さにすばやく対応できるように重ね着をすることをすすめます。また、マフラーやひざかけなどになるストールは合った方が良いでしょう。

この本には、まだまだ紹介できなかった見所がたくさん載っています。みなさんもガイドブックを使って旅の楽しみ方をさがしてみてください。

『たびまる京都』 昭文社  
二年 宮崎愛子

# あなたにオススメの本 心理テスト

あなたに読んでもらいたい旅の本を紹介します。  
質問に答えていくだけです。

**A 旅の参考書**  
P.6 金で遊ぶ世界の旅  
P.7 地球の歩き方  
P.9 たびまる京都

**B 怪物言語**  
P.8 図鑑少年  
P.12 夢を見ようワタナベ  
P.13 ムーミン谷の仲間たち

**C 写真集**  
P.4 世界のドア  
P.11 LOVE & FREE

**D 随筆・ノンフィクション**  
P.2 奥の細道  
P.3 LCCで行く! 7泊7日  
1億円の旅に出る理由

7  
メディアセンターにはあまり行かない  
YES ⇒ B  
NO ⇒ A

4  
本はよく読む  
YES ⇒ 2  
NO ⇒ 5

1  
時間がない  
YES ⇒ 5  
NO ⇒ 4



Books & Travel

3年 佐藤 奈緒子

5  
写真は好き  
YES ⇒ C  
NO ⇒ D

2  
物語より随筆  
YES ⇒ 3  
NO ⇒ B

6  
軽めの本なら...  
YES ⇒ B  
NO ⇒ 3

3  
旅に出てみたい  
YES ⇒ 7  
NO ⇒ D

## 世界を歩

この本は多くの「時間」を手に入れた作者が、自分の奥さんとたった二人で世界をあてもなく旅してまわった中で撮った数々の写真を、作者による詩やコメント、旅での出来事などよつたした文章と共に集めたものです。この本では何処にでも売っているような普通のガイドブックでは知ることの出来ない、現地の一般の方々の言葉や行動などもつづられています。気づらない、その土地のいつも通りの暮らしの雰囲気や人柄などが伝わってくるのでおすすめです。

また、私は普通の写真集では世界遺産や風景などが出来る限り美しく見えるように撮られていて、気づいた印象があります。しかしこの本は駅のホームや地図を見ている人の写真など、世界中の全く特別でない日常をありのままに写してあります。作者と奥さんが見たもの、聴いたものが何も加えられたり引かれたりせずに、そのまま形となっているように感じられるのです。そして「人」や「風景」などの写真のジャンルや文章の形態が固定されていないので、読んでいて、次はどんな写真がでてくるのか、どんな文章がつづられているのか、ページをめくるまでわからないという面白さがあります。作者が旅した順(オーロラリアー東アジアーユーラシア

↓・・・)になっているので、読んでいるだけの自分も世界中をまわり、放浪しているような気分になります。  
この旅の中で、作者は実にいろいろなことを考えています。私たちが日本の中で一カ所にとどまって暮らしていく中では、感じたり考えたりすることが難しいと感じます。この本を読んでいると、そういう作者の、旅先の人々からの問いに会いまます。それらの問いを自分も一度立ち止まって考えてみることで自分を知る材料にもなります。  
あなたは毎日学校の課題や部活、習い事などに追われていませんか。もしそうして忙しい日々を過ごしているならば、この本を読んで、通学時間などよつとした時間で作者と一緒に世界中をあてもなくまわってみたいかがでしょうか。

『LOVE&FREE』  
～世界の路上に落ちていた言葉～  
高橋歩 サンクチュアリ出版  
四年 古川真緑

## 愛を見つけた旅

感じ、体験し、学んだり、旅をすることによって何か一つ成長できたという経験が、皆さんにはありますか。私はここで、旅を通して愛を見つけたうさぎの物語を紹介したいと思います。  
主人公はエドワードという、うさぎの人間形で、彼は持ち主のアビリンという女の子がいました。彼女は彼のことを心から愛し、とても大切にしていました。しかしエドワードのほうはどうでしょうか。彼はアビリンのことを全く愛していません。彼はうさぎの人間形ですが、ただの人間形ではありません。彼は陶器でできており、しっぽは本物のうさぎの毛が使われ、高級な服装に首には懐中時計をかけているというような、特別につくられた特別な人間形でした。そのため、彼は自分に多いに自信をもっており、自分のことしか考えず、アビリンどころか誰のことも愛してはいないような、とんでもなく傲慢なうさぎだったので。  
そんなある夜、いつものようにアビリンがエドワードと眠りにつく頃、部屋に彼女の祖母のペレグリーナが入って来ました。そして彼女はアビリンたちに、あるお話をしました。それは誰のことも愛していなかった娘が、魔法にイボシに愛えら

## 水平線めざして、放浪者は行く

子供から大人まで、多くの世代に愛されるムーミン。フィンランドの自然の中で育った著者による当シリーズは、ムーミン一家を中心に個性豊かな登場人物により多彩な物語が展開されます。そして、その中でも特に人間の心が叙情豊かに描かれたものが「ムーミン谷の仲間たち」という短編集です。今回は、その中の一編「ニョロニョロのひみつ」に登場するムーミン一家の家長ムーミンパパを通して、旅について考えてみたいと思います。  
ムーミンパパは一見理想の父親です。子どもとつばい所もありますが、常に責任感に溢れています。しかし、パパには家庭人になりきれない所があり、それは放浪癖という形で現れ、シリーズを通して何度も失踪しています。そんなパパの放浪癖が描かれた作品が「ニョロニョロのひみつ」です。  
ある日、パパは沖へと漕ぎ出すニョロニョロたちのボートを見ます。ニョロニョロは、ひたすら水平線を目指す放浪者で、彼らと関わろうとする者はいません。しかし、どういわけかムーミンパパだけはニョロニョロに強く魅かれます。おそろしくパパの目には、彼らが何にも縛られない真の旅人に映るのでしよう。ニョロニョロのボートを見たパパは例のごとく放浪癖を

れ、最後に殺されて食べられてしまう、という内容でした。  
「考えてもらえない。愛がないのに、どうやって幸せに暮らせますか。」  
エドワードは彼女が言ったその言葉がずっと忘れられずにいました。そして日がたち、ある日アビリンはたちは船に乗り出かけていきました。しかし、そこでアビリンは手に持っていたエドワードをあやまって海に落としてしまったのです。彼は海の底へと沈んでいきました。そこから、エドワードの旅が始まります。  
彼は旅を通して様々な人と出会います。そして出会いや悲しい別れの中で、愛を見つけていくのです。



「愛を見つけたうさぎ」  
エドワード・テュレインの奇跡の旅  
ケイト・ディカミロ ポプラ社  
五年 志摩真由

発症させ、彼らのボートに乗り込みます。しかし、同行したニョロニョロにいくら話しかけても反応はなく、その顔に感情らしきものは見当たりません。そしてパパは、ニョロニョロは喜ぶことも悲しむこともない、恐ろしい自由を持つ放浪者だということに気づきます。  
旅というものは、ニョロニョロたちの放浪とは違います。出会った事に、自分の心で考え、怖れ、喜び、感動する。それが本当の旅だと思えます。たとえ自分の足を使わず旅でなくても、本や話から異なる世界を感じ心が動けば、それは旅なのです。ニョロニョロの秘密を知ったパパは、旅の本質に気づきました。そして、家に帰ることを決心します。豊かな心さえあれば、人はどこにいても旅ができるのですから。

『ムーミン谷の仲間たち』  
トーベ・ヤンソン 講談社  
六年 長谷川由季

# メディアセンター 秘境の旅

MCの、人がなかなか立ち入らない場所にある、「旅」に関する本を紹介します。

- グレートジャーニー探検記 290.9/Y  
地球を歩き回って旅をした、関野吉晴の話。サイズに反し、スケールの大きな本です。
- 恵泉で学んだ日系アメリカ人学生の声 092/Y  
題の通り。時代を旅する恵泉を感じることができます。英文の勉強にも。
- 鉄道記 686/M  
旅に欠かせない交通手段、鉄道。ファンにはたまらない(だろう)写真が満載です。

MCには様々な本があります。ぜひ、自分だけの一冊を探す旅に出てみてください。

六年 高野梨音

**梶原信夫先生 (数学科)**

Q1 『地球の歩き方』(読んだものは都市別、国別で10冊位になる)は、まず必携の本ですね。

Q2 ・15カ国(3日以上滞在した国)  
・トルコ、ギリシア、エジプト  
いずれも1989年12月~1990年1月にかけてそれぞれ約一週間ずつ、リュック背負って異文化体験、古代文化遺跡めぐりをしました。

Q3 谷口先生

**谷口 穂先生 (社会科)**

Q1 『ブルーガイド わがまま歩き ベトナム』

Q2 ・40カ国  
・ベトナム

Q3 紺野先生

企画はここで終わりますが、恵泉にはたくさんの「旅する先生」がいらっしゃるので、バトンはまだまだ繋がっていくことと思います。今回、企画にご協力いただいた5人の先生方、本当にありがとうございました!

**小山達也先生 (数学科)**

Q1 『地球の歩き方』  
旅のガイドブックのバイブル!

Q2 ・同じ国に何回も行くので・・・10カ国  
・ミャンマー、台湾

Q3 梶原先生

**須田貝り子先生 (聖書科)**

Q1 『ハックルベリー・フィンの冒険』マーク・トウェイン  
ヘミングウェイが1935年に次のように評しているそうです。「あらゆる現代アメリカ文学は、マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィン』と呼ばれる一冊に由来する。すべてのアメリカの作家が、この作品に由来する。この作品以前にアメリカ文学とアメリカの作家は存在しなかった。この作品以降にこれに匹敵する作品は存在しない。」ちょっと褒め過ぎだし、ヘミングウェイがどのような人か知らない人にはあまり意味はないし、私自信もヘミングウェイを権威と思っているわけではないのですが、とにかく少しでも興味をもってくれたら嬉しいです。おもしろいのは、時代と世界が保証しているでしょう。『極限の民族』『深夜特急』はどなたか推薦しそうなのでやめました。これらももちろんお勧めです。

Q2 ・45カ国  
・ネパール(ヒマラヤ)、中国(シルクロード)、東西統一前のドイツ(ベルリン)、旧ユーゴスラヴィア、エジプト(王家の谷とアブシンベル神殿)、ジンバブエ、アパルトヘイト政策時代の南アフリカ

Q3 小山先生

# 旅する先生

この企画では、先生方が思う「旅する先生」をリレー形式でご紹介します。ガジュマル顧問の前田先生を第一走者として、5人の先生にバトンを繋げていただきました。

- Q1 旅に関するおすすめの本を一冊教えてください。
- Q2 行った国の数と、印象に残った国を教えてください。
- Q3 恵泉の先生で「旅する先生」といえば?

**前田憶良先生 (国語科)**

Q1 『ブーヴィエの世界』ニコラ・ブーヴィエ  
自分はなぜここにいるのか、なぜこんなことをしているのか・・・  
ひとり旅は、それ自身が人生の比喩だとわかる、スイス人作家による旅行記。

Q2 ・6カ国  
・スリランカ じっくり滞在できたので、日本社会や西欧近代を相対化するヒントが与えられた。

Q3 須田先生

ガジュマル係		
一年	坂本りり	中川こころ
二年	宮崎愛子	吉原和花
三年	佐藤奈緒子	村上紗恵子
四年	古川真林	吉岡詩織
五年	木部汐梨	志摩真由
六年	高野梨音	長谷川由季

- 顧問
- 山崎清子先生
  - 金美智子先生
  - 前田憶良先生

## 編集後記

今回のテーマは「旅」。旅といっても実に様々な旅があるように、多種多様な本がとりあげられていると思います。少しでも興味のある本があったら、ぜひメディアセンターに足をお運びください。

ご覧の通り、今回のガジュマルは今までとスタイルが違います。年に二回発行されるガジュマルですが、内容の面白さのわりには影が薄くなりがちな存在でした。今回は、生徒の皆さんとガジュマルの距離を少しでも縮めたいという思いから、このような形式を取り入れてみました。しかしこの形式がよかったのか、編集後記を書いている時点ではわかりません。この後のガジュマルで更なる発展があることを願っています。

私は本当に頼りない編集長でした。それでもここまでやってこれたのは、副編集長の高野さんの助けや、顧問の前田先生のアドバイス、インタビューに答えてくださった先生方、そして何よりガジュマル系の皆さんのおかげです。この場をお借りして、感謝を述べさせていただきます。

最後に、ここまで読んでくださりありがとうございました。これからあなたと出会う本が、人生という旅をより豊かにすることを願っています。

六年 長谷川由季